



先生の提案から広がった選択肢

幼い頃から表現することや、モノ作りが好きでした。芸術という媒体を通して社会と関わる人間になりたいと考えていました。高校は美術科で学んでいました。国公立大学進学を目指していたところ、担任の先生から「総合大学の中の美術系学部という選択肢もある」と教えてもらいました。多様な学部があり、ほかの学部の学生との交流もできる総合大学の中の芸術文化学部であるところに魅力を感じ、富山大学を受験し、進学することを決めました。

制作中心の学生生活

富山県はのどかで時間の流れがゆっくりしていて、地元の関西と大きく違うと感じました。学部1年次は五福で教養教育の授業を受け、視野が広がるきっかけとなりました。2年次からの高岡では、作品制作や研究に没頭できました。富山は地方ですが、24時間営業のスーパーも近場にあり生活に困ることはありませんでした。作品制作に疲れたときは、近場に銭湯や温泉があるのでリフレッシュに行きました。

学部を飛び越えての指導を受けられる強み

大学院では「彫刻とフェミニズム」という複合的なテーマに取り組んで制作と研究をしていたため、人文学部の先生に副指導教員を依頼しました。芸術系だけではない分野の専門的な指導や助言を得られたからこそ、より個性的で専門性の高い研究に取り組むことができました。

Instagramはこちら
@4karifujii.enchanted

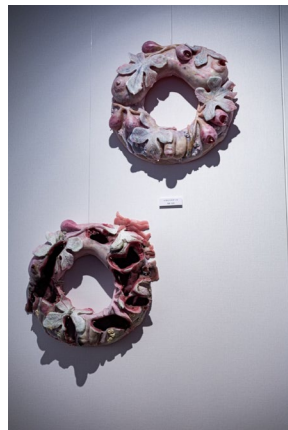


自由に横断的に学べる芸文の心地よさ

総合大学の芸術系とはいえ、設備や授業の専門性に関しては美大や芸大に引けを取りません。学生数に対して教員の数が多いので、どのゼミを選択しても親身になって指導してもらえます。「こんなアイデア思いついたけど、かたちにするにはどうすればいいだろう」と悩んだときに、素材や技法について多様な領域の先生に気軽に相談することができました。

春から会社員とアーティストの2足のわらじ

コロナ禍が明けた学部3年次から、アーティスト活動に取り組んでいます。富山県内外のグループ展や企画展、アートイベントに参加しました。自主企画で個展形式の展示をしました。大学院修了後は、社会人兼アーティストとして、作品制作を続けます。社会人としての経験を積み、視野を広げ、更にはいい作品を作ることが目標です。



母校の後輩たちへ

美大・芸大以外にも、アートを学ぶ選択肢はたくさんあります。地方だからこそ学べることもたくさんあります。富大芸文は、「専門性を高めつつ、いろんなことに挑戦してみたい」という人にぴったりの場所です！ぜひ恐れずチャレンジしてみてください。